

同

河村彦左衛門

右天正十八年迄當國ニ住居支配之所景勝當國ヲ太閤秀吉え被_レ上ニ付八人ハ歸リ川村壹人ハ地利之功有
ヲ以テ太閤被_レ召抱_レ同十九卯年より河村壹人之支配ト成ル
又右九人今年より支配文祿四年景勝所領ヲ改メ奥州會津え國替依_レ之此内河村彦左衛門ハ當國ニ住殘
八人ハ會津へ引越ス或說ニ須賀、登坂、小林、鳥羽、青柳、籠島、富永右八家文祿二巳年越後より來リ
當國ヲ支配スト云

高坂彈正渡海之事

一 天正十年甲州武田家斷絶以後高坂彈正甥春日惣次郎當國ニ來リ竹田村太運寺ニ於テ甲陽軍鑑ヲ書續
終て四十歳の春三月卒墓ハ當寺十六羅漢堂の脇ニ有_レ之又伯父彈正も渡海シテ新穂村ニ住シテ軍鑑ヲ作
不滿シテ死ス其後同甥同名喜平次も來リ相川山之内ニ居テ銀山ヲ稼是高坂間歩ト云彈正本國居住の地ハ
甲州八代郡市部村彈正男子出家シテ正譽上人廓上和尙東武三緣山増上寺十三世の住職此在住の節元和九
亥年當寺三門ヲ建ル
一 今年より慶長三戌年迄國中寺社祭禮等相止同戊亥年より改

佐渡風土記 卷之中

三

「高坂彈正渡海之事」(佐渡風土記 卷之中、永井次芳著、国立国会図書館)